

国際平和文化都市広島から世界へ広がる
被爆 80 年に向けての大プロジェクト

元
國
宝

元
城
島
の
古

元
復
造
木
島
の
古

かつて「国宝」に指定されるも

原爆によつて失われた広島城天守閣。
安土桃山時代の趣を残す天守閣が
八十年の時を経て現代の世に甦る。

震度六強で倒壊の危機！

耐震補強をしてもいすれは解体？

なぜ今、木造復元をすべきなのか？

幻の広島城木造復元計画とは？

木造復元の実現可能性は？

費用は一体どれくらいかかるのか？

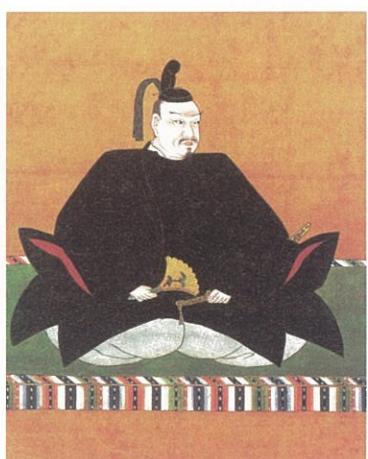
広島城は千年後の未来に残すべき宝！

夢

広島城天守閣の
木造復元を実現する会

約四三〇年前、広島城築城により広島のまちは誕生した

広島の原点、広島城



西国の大名・毛利輝元公
中古十か国の霸者・毛利元就の孫。広島城を築城し、城下町広島の町づくりを行う。豊臣政権五大老の一人であり、関ヶ原の戦いでは西軍総大将となるも、戦に敗れ、自ら築いた広島城を追われることとなる。

広島城天守閣が消滅する？

広島城は、今から約四百三十年前の一五八九年、西国の大名・毛利輝元公によつて築城されました。

当時、毛利家は広島県の県北、現在の安芸高田市吉田にあつた郡山城を本拠地としていましたが、物流の中心が海運であつた当時、山間にあつた吉田は城下町の発展という観点では極めて不利でした。そこで輝元公は、広島湾沿いに新たな城を築くことを決意します。

当時、この辺りは遠浅の海でした。そこにはいくつかの島が点在していました。江波島、吉島、仁保島、比治島、箱島など、その中で最も広い島に城を築いた、それが広島城です。広島城ができたことにより、まちが誕生しました。

昨年、広島市は天守閣の耐震診断を実施しましたが、結果は I_s 値〇・三未満で「地震の振動及び衝撃に対し倒壊、又は崩壊する危険性が高い」というものでした。一般的な建物であれば「 I_s 値〇・六以上」というのがひとつのが安全の目安で、公立学校施設につ

ところが、昭和二十年八月六日、アメリカ軍は一発の原子爆弾を投下。爆心地より約九八〇メートルの位置にあつた広島城天守閣は、原子爆弾の衝撃波に耐え切れず、倒壊。その後しばらくは天守閣のない時代がありました。昭和二十六年、広島国体の際に築かれた仮設の二代目天守閣を経て、昭和三十三年、広島復興大博覧会の開催に合わせて、わずか五ヶ月間という短期間で、鉄筋コンクリートで再建されたのが現在の天守閣、三代目天守閣です。

ただ、ここでいつたん問題を切り分けて考える必要があります。耐震補強工事をすれば、ひとまず耐震基準はクリアしますが、耐震基準をクリアすることと、建物の耐用年数、つまりは建物 자체がと何年もつかということとはまったく別問題だということです。耐震基準をクリアしたからといって耐用年数自体が延びるわけではありません。建物には寿命があります。鉄筋コンクリート造りの建物の耐用年数は、一般的に六十年程度とされています。

仮に耐震補強工事を施したとしても、耐用年数を超えた天守閣は急速に劣化が進んでいき、いずれ安全面を考えて解体せざるを得なくなる日がやつてきます。

これは何も広島城のみの問題ではありません。全国各地にある鉄筋コンクリート造りの天守閣はいずれも同様の問題を抱えています。このままでは四半世紀後には国内の天守閣の大半が消滅していくと考えられています。

天守閣木造復元の意義

現在、国内にある天守閣のほとんどは戦後、鉄筋コンクリートで造られたものです。一方で築城当時の趣を残したオリジナルの天守閣は十二あります。松本城、彦根城、姫路城、松江城、松山城など、うち八つが戦災などで失われてしまっています。広島城天守閣も失われた天守閣のひとつです。



今に残る現存十二天守

江戸時代またはそれ以前に築城され、現在まで残っているオリジナル天守。戦前は20ほどあった。



広島城跡保存管理計画書・広島城跡整備基本計画書
約30年前に広島市が作成した計画書。歳月と共にいつしか忘れ去られた存在となってしまった。



内容は極めて精緻かつ仔細。多数の完成予想図やイラストが掲載されており、計画にリアリティを感じます。

城郭建築の権威である広島大学の三浦正幸名誉教授の見解によれば、文化庁の厳しい基準をクリアできる城は、全国的に見ても名古屋城、岡山城、福山城、そして広島城のわずか四城のみだそうです。特に広島城天守閣は、現存十二天守、それに今後復元可能な四天守を加えた十六天守の中でも、最も古い時代に築かれたもので、当時の豊臣時代の大坂城を模して造られたものです。歴史的にも学術的にもかなりの価値を有しています。

つまりは、現在、忠実に復元が可能で、しかも復元されれば国内で最も古い様式を伝える天守閣、それが広島城天守閣なのです。整備計画は第一期と第二期に分けられ、第一期では表御門、平櫓・多門櫓・太鼓櫓の木造復元、第二期では中御門、裏御門、そして天守閣（大天守に加え二つの小天守）の木造復元をする計画でした。

期限は第一期が計画から五年以内、第二期は現在の天守閣が耐用年数に達するまでと書かれています。ただし、築六十年を経過した天守閣は耐用年数を超えています。つまり計画に基づくと、既に木造復元し終わっていないといけないわけです。

しかししながら実際には平成六年に第一期の二の丸の整備を終えて以降、計画はストップ。市長も担当者も変わり、歳月と共に忘れ去られてしまったようです。

計画書を開いてみると、そこにはワクワクするような広島城の姿が描かれています。多数の完成予想図やイラストが掲載されています。当時の担当者の気概、意気込み、夢、情熱が感じられます。

■市民アンケートの結果(令和元年 広島市実施)

①多額の費用を投じてでも、将来的な木造復元を検討する	21.5%
②木造復元は検討せずに、耐震改修工事のみ実施する	24.7%
③木造復元は検討せずに、耐震改修工事と合わせて、 バリアフリー、トイレ設置等の内部改装を実施する	28.8%
④わからない、その他	24.9%

対象：広島城の利用経験のある広島市民 回答総数：413

木造復元への市民の期待
昨年、広島市は広島城天守閣の今後について市民アンケートを実施しました。(左表参照)
結果は、約半数の方が耐震改修工事が望ましいと回答されていました。ただ、一方で興味深いのは、「多額の費用を投じてでも」という前置きがあるにもかかわらず、木造復元を希望される方が、二〇%以上もいらっしゃるということです。

現在、広島市は文化分野、観光分野の有識者を集め、広島城のあり方に関する懇談会を開いています。天守閣の木造復元については、今後この懇談会においても話し合われ、耐震改修工事にするのか、それとも木造復元にするのかを今年度中に決定する予定です。
ただ、問題は事業予算です。耐震改修工事であれば十億円程度が見込まれますが、木造復元となれば一体どれくらいかかるのか？

ちなみに現在、木造復元計画がある名古屋城天守閣の事業予算是五〇五億円。広島城天守閣についても木造復元をするとなれば、それなりの費用が必要となります

が、名古屋城と比べると規模はずいぶんと小さいです。床面積で言えば四分の一以下です。金鯱も銅瓦も要りません。木材については

名古屋城は無節の木曽ヒノキという最上級の木材を使用しますが、

広島城は一般的な木材でまかなえます。そう考えますと、名古屋城の予算と比べると一桁ぐらい変わってくる可能性もあります。

木造復元への市民の期待

木造復元の実現可能性

さらには全国からの寄付も期待

できます。実際、名古屋城本丸御殿の復元や熊本城天守閣の復旧においては数十億円単位で寄付が集まっています。耐震改修工事では寄付は望めませんが、木造復元となれば多額の寄付が期待できます。

被爆八十年の節目の年に そして、千年後の未来に

今後、実際に木造復元することになれば、文化庁への申請に要する時間も含めると五年はかかると見込まれます。五年後といえば被爆八十年です。被爆八十年という節目の年に木造復元を完成させ、戦前国宝であった広島城天守閣の姿に復する。戦後広島の復興のひとつ区切りとなり得ます。

広島城天守閣は歴史的、学術的にも文化的にも優れた価値を有しています。木造復元できれば、数百年、メンテナンス次第では千年以上もちます。歴史の伝承という観点においても、原爆ドーム、平和記念公園と共に、後世に残すべき遺産、千年後の未来に残すべき宝、それが広島城天守閣です。

●会員募集のお知らせ

広島城天守閣の木造復元を実現させようと思えば、まずは市民の声を広島市に届けなくてはなりません。そのためにもひとりでも多くの方のご参加をお願いしたいです。ご賛同いただける方は、ぜひとも下記連絡先に「入会希望」の旨をご一報ください。※入会金や会費は一切不要です。

●勉強会のお知らせ

当会では、広島の歴史、広島城の歴史、広島城の木造復元などについての勉強会の開催を企画しています。少人数でもお集まりいただける場合は出張もさせていただきます。お気軽にお問い合わせください。

広島城天守閣の木造復元を実現する会（広島市文化協会内 E-mail info@hiroshima-castle.jp）